

課題名	137 ハイブリッドみつばちの現地能力調査	分類	①
	ハイブリッドみつばちの能力とその特性		
試験研究年次	62～1年(完了)		
<p>I 目的</p> <p>本県におけるみつばちの産卵、集蜜能力及び強健性の向上を図るため、優れた能力をもった系統を選定するとともに、その系統間の交雑みつばちの産卵能力、集蜜能力、耐病性等の調査を行い、最適な組み合わせによるハイブリッドみつばちを作出し、その能力を明らかにする。</p>			
<p>II 試験方法</p> <p>1 供試蜂群 系統間交雑種8種、畜研系、対照群(指定蜂場保有群)</p> <p>2 試験規模 指定養蜂場 10戸 (福岡市、糸島郡、粕屋郡、宗像郡、飯塚市、北九州市、小郡市、久留米市、八女市、八女郡)の養蜂農家各1戸</p> <p>3 女王蜂養成 6～7月</p> <p>4 調査項目 群勢 : 越冬前(11月下旬)と建勢期(3月下旬)の蜂量、産卵育児数 特性 : 耐病性(チョーク病)、攻撃性(刺習性)、産卵開始時期 集蜜性: 収蜜量</p>			
<p>III 主要成果の概要</p> <p>女王蜂の産卵能力、チョーク病に対する耐病性、刺習性及び集蜜性の総合評価から、畜研系と米国系の組み合わせ(畜研系♂×米国系♀)をハイブリッドみつばちとして選出した。</p> <p>1 建勢期の群勢: 越冬前から建勢期の蜂量及び産卵育児数は、畜研系と米国系の交雑種が優れている(第1表)。</p> <p>2 耐病性: 愛知系、オーストラリア(豪州)系及び兵庫系を用いた交雑種では、チョーク病に弱い傾向がある(第2表)。</p> <p>3 性質: 愛知系及びイタリア系を用いた交雑種は、畜研系及び米国系の交雑種と比較して、攻撃的性質を持っていた。</p> <p>4 収蜜量: 昭和62年は畜研系と米国系の交雑種(畜研系♂×米国系♀)が、昭和63年は愛知系×米国系が最も多収であった。 また、畜研系と米国系の交雑種は、現在指定養蜂場で飼育されている農家保有蜂群と比べても10～20%程度多収であった(第2表)。</p>			

IV 主要成果の具体的データ

第1表 建勢期における蜂量と産卵育児数

(kg/蜂量1kg:%)

供試蜂群	昭和62年			昭和63年		
	蜂量	伸び率	産卵育児数	蜂量	伸び率	産卵育児数
畜研系×米国系	1.28	105	13,840	1.48	166	18,369
畜研系×豪州系	1.10	100	13,664	1.06	129	13,927
畜研系×愛知系	1.10	100	13,737	1.23	157	15,760
畜研系×兵庫系				1.15	125	14,410
愛知系×米国系				1.19	138	14,259
愛知系×豪州系				1.13	182	15,355
愛知系×兵庫系	1.05	115	11,195	1.11	168	15,479
伊予系×豪州系				1.10	138	14,334
畜研系	1.13	102	13,287	-	-	-
農家保有群	1.22	113	12,077	1.22	126	16,056

注) 測定: 3月下旬、産卵育児数: 育児圏面積測定による概数

伸び率: 建勢期(3月下旬) / 越冬前(11月下旬) × 100

第2表 交雑種の収蜜成績

(kg/群:%)

供試蜂群	昭和62年		昭和63年		チョーク病	刺習性
	収蜜量	対照比	収蜜量	対照比	-~++	-~++
畜研系×米国系	21.4	123	22.5	112	-	-
畜研系×豪州系	16.8	93	23.2	115	+	-
畜研系×愛知系	17.1	98	21.5	107	++	+
畜研系×兵庫系			18.2	91	+	+
愛知系×米国系			24.4	121	+	+
愛知系×豪州系			17.9	89	+	+
愛知系×兵庫系	15.1	87	18.1	90	+	+
伊予系×豪州系			17.4	87	-	+
畜研系	19.9	114			-	-
対照(農家保有群)	17.4	100	20.1	100	±	+

注) チョーク病 → - : 無、± : 微、+ : 中、++ : 多

刺習性 → - : 温和、+ : やや攻撃性がある、++ : 攻撃性が強い

V 成果の評価と取扱上の留意点

- 1 畜研系×米国系をハイブリッドみつばちとして普及する。
- 2 ハイブリッドみつばち普及体制を確立する必要がある。

VI 今後の研究上の問題点

交配手法を省力化するため、人工授精による産卵性の向上を図る必要がある。

VII 資料名

平成1年度 九州農業研究 成果情報 第4号
平成1年度 九州農業新技術 第3号